災害が発生しそうなときには

「避難の準備をしなくてもまだ大丈夫」と思っていても、急激に天候や周辺の状況が変化することがあります。危険が迫ってからでは手遅れになることもあるので、異変を感じたら、すぐに対応するように心掛けましょう。

1 情報収集をしよう

津山災害情報メール

市内で発生した「災害情報」「避難情報」「火災情報」などを、電子メール（携帯電話、パソコン）で配信。※事前登録が必要

【携帯電話から】http://keitai.tsuyama-mail.jp/

【パソコンから】http://www.tsuyama-mail.jp

岡山県総合防災情報システム

県内の災害発生状況や避難情報などをパソコンやメールで確認できる

情報の閲覧【パソコンから】

http://www.bousai.pref.okayama.jp/bousai/

メールの登録【携帯電話から】

http://www.bousai.pref.okayama.jp/bousai/mail.jsp

気象庁ホームページ

さまざまな気象情報の確認

【パソコン、携帯電話から】http://www.jma.go.jp

2 前ぶれを知ろう

■雨の強さと降り方（1時間当たり）

10～20mm未満 やや強い雨	20～30mm未満 強い雨	30～50mm未満 激しい雨	50～80mm未満 非常に激しい雨	80mm以上 猛烈な雨
話し声が聞き取れない。長雨になりそうなら警戒が必要	傘をさしてても濡れる。下水道や小さな川があふれる。小さながけ崩れが発生	傘が使えず、雨合羽が必要。山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなる	水しぶきで周りが白む。外に出るのは危険。土石流が起こりやすい	大きな災害が起こる恐れが強く、厳重な警戒が必要

がけ崩れ

- がけから流れる水が濁る
- 斜面にひび割れが入る
- 小石がパラパラと落ちてくる

地すべり

- 地面にひび割れができる
- 沢や井戸の水が濁る
- がけや斜面から水が吹き出す

土石流

- 山鳴りがする
- 雨が降り続いているのに、川の水位が下がる
- 川の水が濁り、流木が混ざる

3 避難する時の注意点を知ろう

■**移動**

単独行動は避けて、できるだけ集団で落ち着いて移動することが大切です。

障害のある人やお年寄り、病弱な人などの災害時要援護者の避難を優先させる。徒歩で移動しましょう。

道路が冠水した場合、側溝やマンホールなどに気付きにくいので長い棒などを杖代わりにして歩くと安全です。

■**服装と荷物**

■**注意**

歩行可能な水深の目安は約50㎝といわれています。水の流れが速いと20㎝でも危険になります。無理をせず、高所に避難しましょう。

インタビュー 地域で防災に取り組む

日上町内会自主防災・防犯会
会長　長船　毅　さん（日上）

自主防災組織の立ち上げ

日上町内会は152世帯503人（平成26年4月1日現在）が住む町内会です。

地域内には、吉井川と加茂川の合流点があり、平成10年の水害では浸水被害などが起きたこともあり、住民の防災への関心は以前からありました。さらに防災意識を高めるため、町内行事などで、防災の映像を見てもらうようにしました。そして、平成24年1月に日上町内会自主防災・防犯会を発足しました。

結成後は、地元消防団や子ども会などの各団体と協力しながら、清掃活動や運動会時の消火器による初期消火・バケツリレーなどの防災・防火訓練や避難訓練を行っています。

防災・防犯マップの作成

数年前に町内で建物火災が発生したことをきっかけに、消火栓や防火水槽などの位置を地域で確認、把握しておく必要があると感じました。同時に、防犯の危険箇所の把握もできればと思い、防災・防犯マップの作成に、取り掛かることにしました。マップの作成には、町内会役員や小字地区ごとの保護者や小学校とも協力しながら、実際に現場を確認していきました。

また、町内で避難場所も決まっていなかったので、話し合って決めることができました。さらに、独居老人など、災害時に手助けが必要な人の把握や実際の支援は、小字の地区単位で行ってもらうようにしました。

マップの作成を通じて、町内で共通の認識を持つことができ、有事の際にも役立つと思います。

今後の自主活動について

現在、作成している防災・防犯マップが完成したら、まず、地域の子どもたちを集めて一緒に危険箇所を見て回ろうと思っています。子どもたちが実際に見て、確認することで、さまざまな事故の防止にもなると思います。

また、危険箇所を無くしていけるよう、危険順位を付けて、少しずつでもできる範囲で改善していきたいと思っています。